



# 月刊 千葉動力車

JR東日本は、JR全社の中で、群をぬいてJR総連革マルと癒着した異常な労務政策に固執している。

つまり、JR東日本は、他社と比較して、最も危機が深く硬直した姿勢をとらざるをえないと言いうことである。

こうした東日本の態度に、JRの他社の幹部は、「東日本の経営者は、東労組松崎委員長にへつらうばかりで、労務政策を持っていない」と公然と嘲笑しているありさまなのである。

JR東の「錯乱」を象徴するものとして、五月一六日開催された「JR

## その2 JR東日本の危機!

総連地方議員団会議「目黒さつき会館」での松田副社長(元常務)の発言がある。

松田副社長  
長の講演演  
・抜粋

清算事業団の雇用

問題が地労委から、中労委に上がっている。中労委は結論を出しきれないでいる。絶対会社側が勝つに決まっている。清算事業団からの採用については、東海の無制限採用は全く理解できない。けしからん。国労と千葉動力車は時とともに消滅する。社会党の安恒議員(参議院)はまったくけしからん、連合に加盟している私鉄総連がなんで国労と結託してJRいじめをするのか、現在私鉄総連に加盟している組合が数多くあ

# 革マルとの野合に回執 JR他社からも嘲笑

るが、私は私鉄総連を抜けてJR総連に加盟するよういつている。こんなものは不当労働行為でもなんでもない。

これが「大企業」の副社長の発言なのかと耳。

目を疑うが、事実なのである。

労働委員会を「気遣い(ママ)ー」とののしつた松田副社長の発言内容は、安全に関する使命感も、何も無い。

ただただ勤労千葉、国労憎しの心情をぶちまけ、

# 「危機隠しの最期」 国際鉄道安全会議

JR東日本・住田社長は、今年十月三〇日から十一月一日に、「国際鉄道安全会議」をJR東労組と共催で開催すると発表した。

しかし、発表と同時にJR他社からは背をむけられ、六月一日開催された国際運輸労連日本協議会(ITF、JCC)の会議でも、JR総連から提起された「世界鉄道安全会議およびJR総連議員のロンドン留学に関するITF本部への要請」

が、出席者によって「安全問題を労使問題としてとらえられる懸念がある」等々と反発、批判され東労組の「要請」は一蹴されてしまい、協力要請があったことも議事録から抹消されてしまったのである。

莫大な費用を使い、安全を喰いものにして「世界に冠たる日本の鉄道」を吹聴し、JR体制の危機を隠し、とりつくろうとした当局と東労組革マルの思惑は、そのスタートからノックアウト、パ

今後革マルと手を組んで、組合潰しをやるぞとわめいているのである。まさに錯乱の極ではないか。

「JR東日本の異常な経営姿勢を打破し変革しなければ」という決意はますます広く、激しいものになっているのである。

JR各社  
間の抗争  
・激化!

九二年度の株式上場をめぐり、JR各社間の醜い抗争が激化している。品川駅跡地をめぐる東海と東日本の争奪戦をはじめ、宿舍の奪い合いにまで及んでいる。

しかも、住田社長は、社員持ち株制度の目標として、「NITの二倍」だと言っているのである。

「株式上場のため」として、安全と安心して働ける職場環境を破壊、切り捨てて、一切の犠牲を労働者におしつける、JR当局とその手先「JR総連革マル」の横暴をこれ以上放置することは出来ないのである。怒りも新たに「JR体制」弾劾へ!